

平成29年度魚病診断結果について

病害対策研究

谷本 剛・湯浅明彦

水産研究課では魚介類の感染症の発生やまん延を防止するため、魚病発生の監視や養殖魚の衛生管理の指導を行っている。

ここでは、平成29年4月から平成30年3月の期間に当課において魚病診断を実施した結果について報告する。なお、魚病診断の対象には、養殖魚以外に種苗生産魚、観賞魚及び河川生息魚も含まれている。

魚病診断結果

淡水魚の魚病診断結果を表1に示した。

淡水魚の診断件数は、アマゴ5件・アユ31件・ウナギ21件・ギンザケ1件・オヤニラミ7件・ニシキゴイ2件であり、合計67件であった。診断件数は前年度に比べ49件増加した（前年比372%）。

アマゴでは、7,8月に当歳魚の種苗において、下顎から胸鰭基部にかけての発赤が顕著な症状のせつそう病が発病した。

アユでは、6月に県南を流れる二河川（伊勢田川、海部川）で冷水病による死亡事例が確認された。特に伊勢田川では初めての事例であったが、冷水病の感染経路については特定できなかった。この伊勢田川の伏流水を飼育水として利用している（財）徳島県水産振興公害対策基金加島事業場では、種苗生産用のアユ親魚が冷水病を発病したが、この分離菌株は伊勢田川で死亡したアユの分離菌株と薬剤耐性が異なったことから、伊勢田川からの飼育水が感染源とは断定できなかった。また、10月に吉野川で県下の河川では初めてとなるエドワジェラ・イクタルリ症による死亡事例が確認された。主な症状として、体表に多数の小さな出血斑が見られた。1月には漁協で放流用として中間育成していた種苗において胃真菌症が発病した。病魚は胃の炎症、発赤が顕著で、胃の中には多数の真菌が充満していた。また、3月に養殖種苗で、細菌性鰓病が散見された。鰓蓋が開いた個体が多く、鰓はうっ血、出血点といった特徴的な症状を示し、鰓弁周辺には多数の長桿菌の繁殖が確認された。

ウナギでは、8月に鰓弁中心静脈洞のうっ血、胸鰭の発赤といったウイルス性血管内皮壊死症の典型的な症状を示し、PCR検査でも陽性であった一方、ピブリオA型やエロモナスといった細菌感染症原因菌が分離培養される混合感染

が見られた。また、11月にシュードダクチロギルスの大量寄生による摂餌不良が原因となり免疫力が低下し、パラコ口病に罹患して死亡する事例が見られた。1,2月にはボイラー設備のない養殖池で低水温による水カビの発生が原因と見られる死亡事例が散見された。

海水魚の魚病診断結果を表2に示した。

海水魚の診断件数は、カンパチ9件・クロマグロ1件・ブリ6件・マダイ5件・マハタ2件であり、合計23件であった。診断件数は前年度に比べ11件増加した（前年比192%）。

カンパチでは、7月に中国海南島から輸入した種苗で、住血吸虫の虫卵が入鰓管に多く充満し、鰓の血管が閉鎖したことが原因の死亡事例が確認された。また、9月にハダムシの大量寄生により尾鰭が欠損するなどの重篤な症状を示す事例が確認された。

マダイでは、6月に県外から導入された種苗において、鰓弁上に多量のシストを伴ったエピテリオシスチス症が発生した。

クロマグロでは、9月に畜養中の養殖用種苗が生簀網に激突したことが原因と思われる脊椎骨折による死亡事例が発生した。

マハタでは、3月に低水温に起因する滑走細菌症が発生し、頭部のスレ、炎症などの症状を示す死亡事例が確認された。

今年度は、2月に日本列島を襲った寒波の影響や黒潮の離岸等により養殖漁場の海水温が例年になく低水温となり、カンパチ、ブリ、マダイ、マハタにおいて低水温による生理障害が原因と見られる死亡事例が多発した。

表1. 淡水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計
		H29						H30						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アマゴ	せつそう病				2	1								3
	細菌性鰓病										1			1
	細菌性鰓病+イクチオボト症+トリコジナ症			1										1
アユ	冷水病	2		2	1	3						1		9
	エドフジェライクタルリ症	1						1						2
	ヒブリオ病								1					1
	細菌性鰓病												2	2
	細菌感染症		1									1	2	4
	グルゲア症			1		1								2
	胃真菌症										1			1
	酸素欠乏症					1								1
	不明	1			1			1					1	4
	健康診断		1						1		1		1	1
ウナギ	ウイルス性血管内皮壊死症+細菌感染症					1								1
	カラムナリス症										1			1
	パラコロ病												1	1
	パラコロ病+シュードダクチロギルス症								1					1
	細菌感染症	1					1							2
	シュードダクチロギルス症							3			1			4
	シュードダクチロギルス症+水カビ病										2			2
	水カビ病										1	1		2
	不明		1			1					1			3
健康診断								1		1	1	1	4	
ギンザケ	細菌性鰓病+鰓繊毛虫				1									1
オヤニラミ	キロドネラ症+水カビ病			2										2
	不明			1	3	1								5
ニシキゴイ	キロドネラ症+イクチオボト症									1	1			2
合計		5	3	7	8	9	2	5	3	5	7	6	7	67

表2. 海水魚の魚病診断結果

魚種名	魚病名	魚病診断件数												計
		H29						H30						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カンバチ	ヒブリオ病			1										1
	ゼウクサプタ症		1											1
	住血吸虫症				1									1
	ハダムシ症						1	1						2
	低水温による生理障害											3		3
	不明	1												1
クロマグロ	脊椎骨折						1							1
ブリ	滑走細菌症			1										1
	低水温による生理障害											4	1	5
マダイ	エピテリオシスチス症			1										1
	低水温による生理障害												2	2
	不明							1						1
	健康診断					1								1
マハタ	滑走細菌症												1	1
	低水温による生理障害											1		1
合計		1	1	3	1	1	2	2	0	0	0	8	4	23